

2012
学園案内

命の源
それは農業です



ごあいさつ

土を耕し、心を耕す。

日本農業実践学園を目指す皆様へ
21世紀は経済優先の社会から命・健康・自然を大切に
する社会へと変わることが期待されています。農業は、
「食」をとおして私たちの命を支える「命の源」です。
私たちの命を守り、安心した暮らしを送るためには、
私たちのバックボーンに「自分たちが食べるものは自
分たちが作る」という精神が必要です。日本農業実践
学園は農業に生き甲斐を見いだそうという方々をお待
ちしています。

専修学校 日本農業実践学園

学園長 加藤 達人

沿革

- 大正14年 社団法人日本国民高等学校協会が設立
- 昭和2年 茨城県友部町に農村中堅人物の養成を目的に日本国民高等学校として開校
加藤完治初代校長
- 昭和10年 茨城県東茨城郡内原町の現在地に移転
- 昭和25年 新制高等学校設置に伴い、校名を日本高等国民学校と改める
- 昭和55年 高学歴化に伴い、校名を日本農業実践大学校と改める
- 平成3年 校名を日本農業実践学園と改め、文部省より大学受験資格の認可を受ける
卒業生 8,000人余が全国で活躍中

教育目標

農業を担う青少年に対し、確固たる人生観を与え、勤労と責任を重んずる精神を涵養し、広い視野に立って農業経営の近代化を推進する知識と技術を体得させ、いかなる環境にあっても自立することの出来る、心身とも健全な農業者を養成する。

教育方針

1. 実践教育

農業経営者として、農業に関する知識や理論を学ぶと同時に、これを実地に生かすことの出来る実力の養成が必要である。そのため実践を中心とする教育を通して、将来日本農業の発展に寄与しうる、有為の中堅人物及び実践的指導者を養成する。

2. 全寮制教育

全寮制による共同生活を通じ、基本的な生活習慣を身に付けさせると共に、自立と共同の精神を切磋琢磨の中から体得させ、社会人としてのより高い良識を養う。

3. 師弟同行

職員と学生が各々の立場に於ける自助努力と共に、お互いを通しての学びあいの実践により、修養の共感を高め人格形成に努める。



募集要項

募集人員

	科	募集人員	修業年限	資格
経営部 (男子)	専修科	各20名	1年	大学・短大卒業(同見込み)の者、又は同等と認められた者(入学は4月又は10月)
	本科	各30名	2年	高等学校卒業(同見込み)の者
生活部 (女子)	高等科	各25名	3年	中学校卒業(同見込み)の者

資格及び特典

1. 本科卒業生は、文部科学省大臣の通達により農業専門士の称号が授与され、短大卒と同等の待遇となり、他の大学(農学部)への編入が可能となる。
2. 高等科卒業生は、大学受験資格など高等学校卒業と同等の取扱を受けられる。
3. 本科、専修科生で、海外での農業実習や青年海外協力隊参加を希望する者には便宜を図る。
4. 本科生は、大型特殊自動車運転免許、毒物・劇物取扱資格を取得することができる。*
5. 高等科生、本科生、専修科生の希望者は、次の技能免許を取得することができる。*
 - a. 小型車両系建設機械運転技能
 - b. フォークリフト運転技能(1トン未満)
 - c. 高所作業車技能(10メートル未満) ※別途受講料が必要。



経費

1. 教育経費 年額 264,000円
授業料等、但し初年度のみ施設整備費として 100,000円
2. 生活経費 年額 529,200円
内訳(寄宿舎費 189,000円、食費 340,200円)

※専修科生は、年間経費 350,000円になります。

応募手続き

入学を希望する者は、下記の書類に選考手数料(20,000円)を添えて提出する。

1. 入学願書 専修科…履歴書
本科・高等科…学園所定の願書
2. 卒業(見込み)証明書
専修科…卒業(見込み)証明書
本科・高等科…成績証明書

※ 本科受験生で日本農業技術検定(日本農業技術検定協会主催)の3級以上を所持する者は、合格証のコピーを同封すると、選考手数料20,000円は免除となる。



選考

科	選考方法	願書受付期間	試験日
専修科	書類選考・面接	4月入学 平成23年11月1日～平成24年3月24日	願書受領後 本人宛に 連絡
		10月入学 平成24年 5月7日～平成24年9月18日	
本科	書類選考・面接	平成23年10月1日～平成24年3月24日	
高等科	学科試験(国、数、作文)・面接	平成23年12月1日～平成24年3月24日	

合格発表、入学手続

試験後一週間以内に文書で通知する。

合格の通知を受けた者は、所定の期日までに入学金30万円(専修科は5万円)を納入するものとする。

期日までに納入しない者は、入学の意志がないものとし、合格を取り消す。

但し、いったん納入された入学金は返却致しません。

やむなく入学を辞退される場合、所定の期日までに入学辞退手続きを完了された方には、入学金を除き、納入された学費・諸費用を返還いたします。所定の期日の翌日以降、中途退学された場合には、最高裁判例に基づき、一旦納入された入学金、授業料および諸費用は返金できません。

所定の期日：高等科、本科、専修科4月入学生－平成24年3月31日

専修科10月入学生－平成24年9月30日

● 日課表(夏期)

本学園では、実践教育を重視しています。そのためカリキュラムは、農場での実習を中心としたものとなっています。

5:30	起床
5:45~ 7:00	朝実習
7:00~ 7:45	朝食
朝食後~ 8:30	休憩
8:30~12:00	午前実習
12:00~12:45	昼食
昼食後~13:30	休憩
13:30~17:00	午後実習
17:15~18:00	夕食
22:00	消灯



加藤完治初代校長



● 年間行事(予定)

日本農業実践学園は農業の技術を磨くと共に心を磨くことにも力を入れています。

農業を志す仲間との楽しい学園生活は、あなたの可能性を大きく広げます。

4月	入学式 歓迎会 筑波農林団地見学
5月	プロジェクト課題発表
6月	さなぶり レクリエーション
7月	剣道暑中稽古 富士登山 農業技術検定
8月	夏期休暇 サマーセール 農家研修
9月	専修科10月生卒業式
10月	専修科10月生入学式 体育祭 海外研修旅行(本科)
11月	収穫祭
12月	修学旅行(高等科) プロジェクト研究発表会 年末交流会 年末セール
1月	冬期休暇 剣道寒稽古

2月	愛宕山強歩 大型特殊自動車免許講習会 農家見学会 期末テスト
3月	筑波強歩 卒業式



農家見学



トラクター講習



愛宕山強歩



富士登山



収穫祭



海外研修旅行(韓国)



海外研修旅行(韓国)



海外研修旅行(韓国)



年末セール



筑波強歩



卒業式

一人ひとりが、夢の実現に向け奮闘中!



廣瀬 将希

会社勤務→専修科(07年卒業)→農業法人(茨城県)
食品関連の仕事をしてきたが、生産に関わりたいたいという思いが強く前職を退職。本学園で野菜栽培を学ぶ。卒業後、麻栗沼浦一商店に就職。サツマイモのほか少量多品目の野菜栽培も担当。60haの畑で大型機械を使いなおかつ農業+化学肥料に頼らない栽培を実践している。



高橋 善雄

会社勤務→専修科(07年卒業)→就農(京都府)
在学中は長芋栽培の学習に力を注ぐ。卒業後、京都の夜久野に就農。地域の特産であるお茶の栽培をメインに、自然薯・黒大豆などの野菜も生産。地域の方と交流をしながら農業を営んでいる。



金村 良和

会社勤務→専修科(07年卒業)→研修→就農(島根県)
本学園では野菜栽培を学び、就農希望地の島根へ移り当地の特産であるデラウエアの栽培の研修を受ける。現在、20aのハウスでデラウエアとシャインマスカットを栽培。



志澤 隆夫

会社勤務→専修科(08年卒業)→就農(茨城県)
野菜栽培を学び、卒業後アスパラガスの農家に一年間研修し、現在は牛久市で10aのハウスを建て新規就農。アスパラ栽培に奮闘中。



田部 勝也

本科(08年卒業)→農業組合(茨城県)
農業高校を卒業後、本学園に入学。酪農を学ぶ。卒業後は酪農ヘルパーとして組合で勤務中。将来は家業を継ぐ予定。



角田 玄史

会社勤務→専修科(05年卒業)→農業法人(茨城県)
野菜栽培を学び、卒業後(有)盛田アグリカルチャーリサーチセンターに就職。3haの露地野菜生産の責任者として、年間25品目の野菜を生産。



水野 浩司

農業研修→農業職業訓練(05年卒業)→就農(茨城県)
ワーキングホリデービザで1年間オーストラリアに渡り、当地の自然に感銘を受け就農を決意。本学園で野菜栽培を学ぶ。卒業後、常陸太田市に移り住み就農。少量多品目の有機野菜を栽培しながら農的生活を送っている。



高橋 秀直

県立高校→本科在学
実家は茨城県神栖市でピーマン栽培をしており、将来実家を継ぐべく、野菜栽培を中心に勉強中。



小島 博臣

会社勤務→専修科(10年卒業)→イチゴ農家(栃木県)
当初、出身地である茨城でできる仕事として、農業を学ぶ。学園では野菜栽培を学び、みんなが好きな作物で、また出来の良し悪し分かりやすいということでイチゴを選択。卒業後は日光ストロベリーパークに就職し、42aの園地でとちおとめの栽培に携わっている。

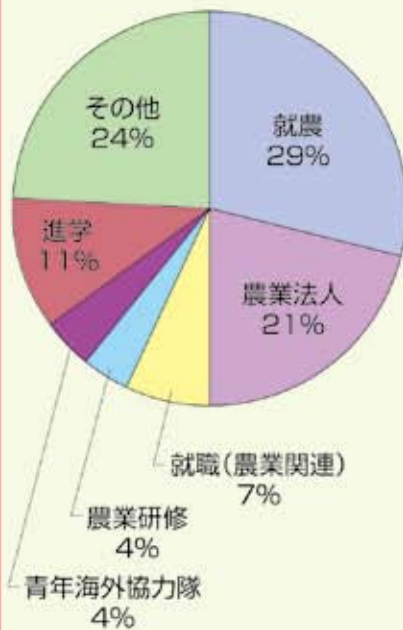


今井 真理子

会社勤務→専修科(11年卒業)→農業研修(千葉県)
会社員のころ知合いの畑作業を手伝い、農業が社会に果たす役割の大きさを感じ、一生の仕事とすることを決意。在学中は有機野菜の栽培を学び、卒業後は(株)エスビイエイの研修に参加。高糖度トマト・いちじくなどの栽培や流通販売を経験し、将来、千葉での就農を目指す。

卒業生の進路

(平成22年度)



チャレンジ the 農業体験・研修

別資料有り

短期農業体験(1週間)・中期農業研修コース(1ヶ月)・農業実践コース(3ヶ月)

全く農業経験がないので、農作業を体験してみたい。少し長期に農業を勉強したいという方々を対象に、全国新規就農相談センター主催による体験・研修です。年間通してほぼ毎週実施していますので、皆さまの希望する時期に受講することができます(中学生以上可)。

就農準備校

別資料有り

農業に興味がある、将来農業をしてみたい、田舎暮らしをしたい、そのような希望のある方で、現在の仕事を続けながら、休日を利用して農業の体験、基本的な知識と技術を勉強します。有機野菜、有機農業(埼玉県小川町)のコースがあります。



子どもたちの農業体験・職場体験

要相談

幼、小、中、高校生まで、団体やグループ単位で受け付けています。田植え、稲刈り、サツマイモやジャガイモの収穫、お茶摘み、栗拾い、家畜見学・世話、パンや豆腐作り等が体験できます。小・中学校の先生方や団体指導者の農業体験研修も5人以上のグループで受け付けています。



さあ、「農」の道へ踏み出そう!

「将来、自然の中で農業をしたい」

「農業法人に勤めて農業がしたい」

「安心・安全な食料を作ってみたい」

「地球に優しい農業がしたい」

「自給自足で、田舎暮らしがしたい」

「青年海外協力隊に参加して、海外で農業の指導をしたい」

このような夢や希望を持った、10~50代の人達が学んでいます。

稲作



10haの圃場で、育苗から精米・販売まで一貫しての実習。

野菜



50種類の野菜を育てながら、土作り・栽培技術・販売まで、一年を通じての野菜栽培を学ぶ。

有機野菜



有機認証取得農場にて、化学肥料、農薬を使用しないで野菜栽培。

水耕栽培



GAP認証取得農場にて、ミツバ、レタス、水菜等を年間通じて栽培。

酪農



フリーストール牛舎で、高性能な牛。高品質な牛乳の生産。エクセレント牛が5頭誕生。

農産加工



季節の農産物を使用したの加工品作り、販売。

直売所



学園で作った農産物は、直営の直売所で販売しています。地域のお客様にも好評!

養豚



農場から出る野菜や調理くずを飼料として味の良い豚を肥育。直販により収益性の高い養豚経営を目指す。

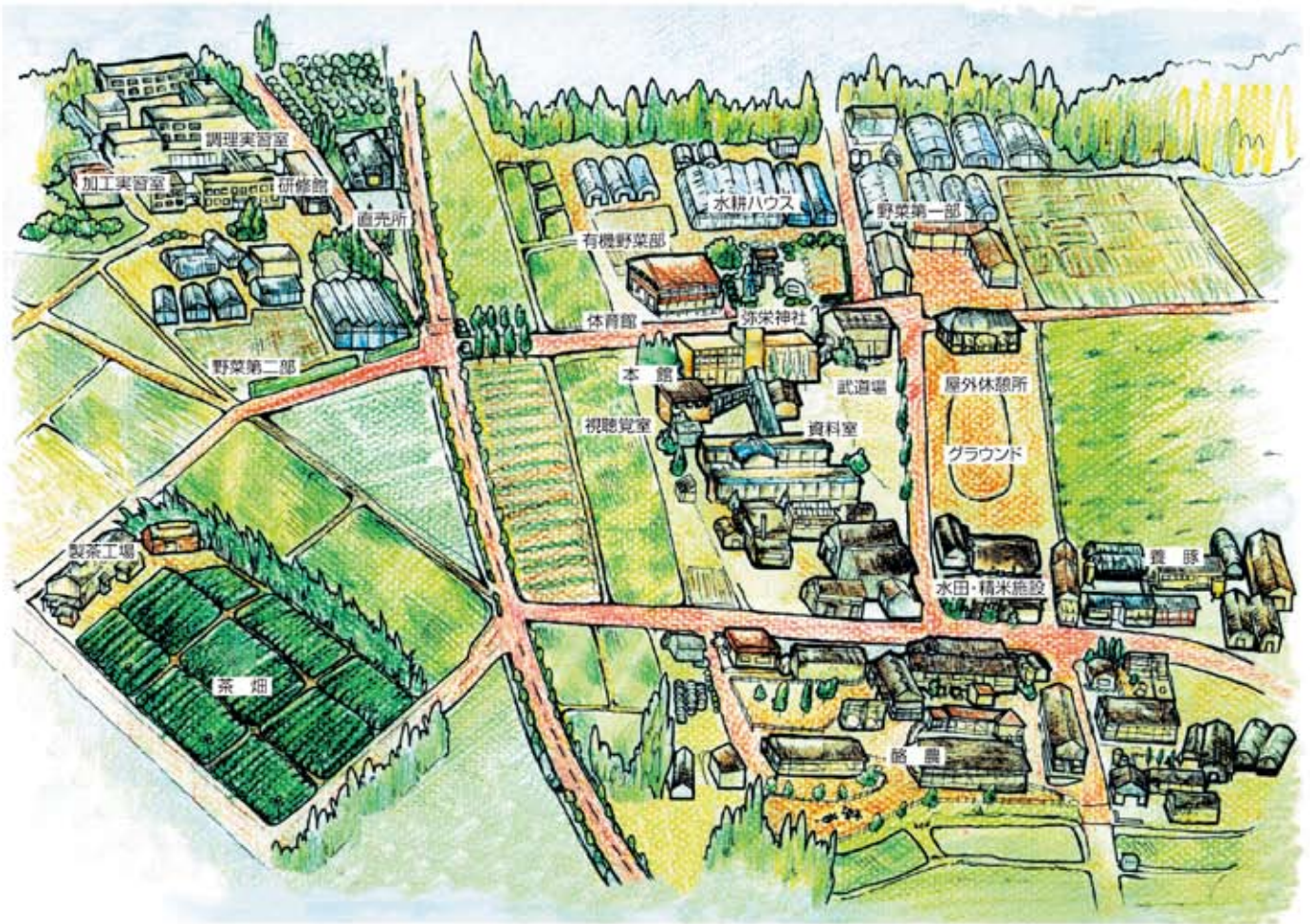
果樹・製茶



茶、栗、ブルーベリーなど果樹の栽培と、収穫物の製品化までを実践。

学園見学

学園では、随時学園見学を受付けています。電話でお申し込みください。



※詳細はホームページまたは下記学園当局へお問合せください。

専修学校 日本農業実践学園

〒319-0315 茨城県水戸市内原町1496

TEL. 029-259-2002

FAX. 029-259-2647

<http://www.nnjg04.com/>

E-mail nichinou@atlas.plala.or.jp

日本農業実践学園ホームページ

モバイルサイトのご案内

携帯電話のバーコードリーダー機能をご利用してアクセス下さい。

